

<全体分析>

試験時間

150 分

解答問題数

5 題

解答形式

記述形式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴

典型的な問題が多いが、計算が煩雑なものもある。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

昨年度に比べ、数学Ⅲからの出題が減った。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	微分法・積分法	Ⅲ	有理関数のグラフと面積	標準
[2]	空間ベクトル	B	球面と平面の交円 (大円) 上の動点	標準
[3]	微分法・積分法	Ⅲ	グラフを平行移動させたときの通過領域	標準
[4]	場合の数 数列 数列の極限	A B Ⅲ	A、B、Cで作る文字列、 3項間漸化式と極限	標準
[5]	整数 数列	A B	ガウス記号と和	やや難

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

典型的な問題を全分野にわたって繰り返し学習しておこう。

また、今年度は昨年度に引き続き融合問題は少なかったが、例年は融合問題も多く出題されているため、その練習もしておこう。